

学 長 選 考 会 議 議 事 録

(令和3年度 第2回)

令和3年6月23日(水)

15時10分から16時40分まで

法人本部3階「第一会議室」

【出席者】

学長 玉手 英利

経営協議会選出委員

相澤 益男 井上 弓子 里村 正治 鈴木 道子 西海 和久

教育研究評議会選出委員

是川 晴彦 大森 桂 大西 彰正 上野 義之 中島 健介

村山 秀樹 佐藤 慎哉

【欠席者】 小林 裕明 長谷川真理子

【陪席者】 羽鳥副学長 渡辺監事

議事に先立ち、羽鳥副学長から、本日の会議が規程第5条第2項の会議開催要件を満たしている旨の報告があった。

I 前回議事録の確認について

相澤議長から、前回の議事録について確認が行われ、議事録が確定された。

II 学長の業務執行状況の確認に係る意見交換について

玉手学長から、昨年度から取り組んできた課題や今後取り組むべき課題等について説明があり、次いで、学長選考会議委員との意見交換を行った。

委員からの主な意見等は、以下のとおり。

- ・ 学長の方針を各学部が具体的な研究開発や教育のテーマに結び付けていくためにも、具体的な目標、トップポリシーを定めるべきではないか。(西海委員)
- ・ 今後、山形大学がどれだけ学生を受け入れていくか、地域の教育格差にどのように貢献していくかについては、非常に重要な部分である。その点について学長のメッセージ、考えを発信してもらいたい。(中島委員)

- ・ 学長の考えが組織に浸透し、第4期中期目標・中期計画期間で改革を進めていくには、学長が発言された学内及び地域からの「信頼と支持」は非常に重要であると考えます。（大西委員）
- ・ 山形大学は「地域に根差し世界をリードする大学」という方針を掲げており、地域に根差す部分については発信されているが「世界をリードする」という部分については第4期中期計画ではあまり見えていないのではないかと。世界に発信するという姿勢は大学として持ち続けていただきたい。また、年々減少している教員の教育研究の時間について、大学としていかに確保するかという事については、大学として大事にしてほしい。（村山委員）
- ・ 複数の学部長の推薦により当選した玉手学長であるので、推薦した学部長等は当然積極的に助言し支え、キャンパスのコミュニケーション不足にも力を貸してくれるものと期待している。その上で職員の異動によりコミュニケーション不足を少しでも解消できるように努力してほしい。（井上委員）
- ・ 他の大学との競争関係にある中で、山形大学の競争優位性は何かと問われている。学内の教職員と共通ビジョンを持ち、課題に対して全員でチャレンジしていく姿勢が一番の基本である。そのために学長がリーダーとして、学長のビジョンを示していくべきではないか。（西海委員）
- ・ 国立大学法人が全国にある中で、それぞれの国立大学の特色を明確化させることが法人化の際の大きな目的だった。第4期中期目標・中期計画の中で、山形大学の特色を独自の表現で一般化せずに示していくことが非常に重要ではないか。（相澤議長）
- ・ 今後については、学長のビジョンを早急に明らかにすべきである。更にそのビジョンの下でプライオリティを持って動くためには戦略が必要であるため、学長直下の組織により全学の戦略策定を進めていくべきである。また、第4期中期目標・中期計画期間から年度評価が無くなるため、戦略に基づく計画の進捗管理あるいは戦略の変更などを常にチェックする必要があるため、評価体制をより強固にしていく必要がある。その点に関して検討願いたい。（相澤議長）

III その他

羽鳥副学長から、次回開催予定について、現時点で予定は無く、必要に応じて開催する旨の説明があった。